

Primaff News

VOL.6 平成20年1月18日発行



2008年年頭所感 霞ヶ関移転の年を飛躍の年に

気候変動枠組条約締約国会議(COP13)に参加して





2008年 年頭所感

霞ヶ関移転の年を飛躍の年に —サーバント・リーダシップの精神で—

農林水産政策研究所長
小西 孝蔵

今年は農業総合研究所が出来てから62年、西ヶ原に移ってから49年、農林水産政策研究所に再編（設立）されてから7年が経つ年になりましたが、秋には、霞ヶ関（合同庁舎4号館）に移転するという節目の年になりました。19年度から組織体制をグループ・チーム制に転換すると共に、研究課題の設定から成果のとりまとめまで行政と密接に連携して研究を実施する体制に移行しましたが、いよいよ、物理的にも、農林水産本省に近接した場所に移転することにより、行政とのコミュニケーションがとりやすい環境になります。

2月下旬には、今日世界的にも大きな注目を浴びている「環境と農業の調和」をテーマに内外の専門家を招いての年に一度の大きなシンポジウムを予定しています。また、6月はじめには、日中韓シンポジウム（北東アジア農政研究フォーラム）が、3年ぶりに当研究所の主催で東京で開くことになっています。自然的・地理的・文化的に類似する日本、中国、韓国の農業政策研究機関が研究交流を図るため、5年前に発足したもので、各国の最近の農業や貿易動向、政策の進展を分析するには格好の場になります。

最近、バイオ燃料を含めた国際食料需給の中長期的な見通し分析、FTAを含む国際貿易情勢の把握や分析、集落営農の定点観測を含む農政改革にかかる研究課題をはじめとして、農業の内外の情勢変化と行政ニーズから政策研に求められる役割は、これまで以上に大きなものがあります。私どもは、そのような期待に応えるべく、研究所内で役割分担しつつ農林水産省関係部局とより密接に連携していくと共に、幅広い視野とアカデミックな研究レベルの維持向上を図るために、OECDをはじめとする海外の研究機関や国内の大学等研究機関との交流ネットワークをさらに充実していきたいと考えています。

最近注目を集めているサーバント・リーダシップの考え方を当研究所に応用してみますと、行政と国民のニーズに仕える精神で研究を進めることによって当研究所ならではの主体的役割を果たしていけるのではないかと考えています。農林水産政策研究所の発足をホップとすれば、昨年の研究体制の再編をステップ、霞ヶ関への移転の節目である今年はジャンプの年であります。サーバント・リーダシップの精神でさらなる飛躍が出来るよう、関係者の皆様のご理解、ご協力を頂きながら、私ども所員一同精一杯勤めを果たして参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

気候変動枠組条約締約国会議(COP13)に参加して

農林水産政策研究所次長
渡部 靖夫

気候変動枠組条約第13回締約国会議(COP13)とそれに関連する会合が、昨年12月3日から15日までインドネシアのバリ島で開催され、代表団の一員として参加した。

今回の会議では、京都議定書第1約束期間後(2013年以降)の枠組(次期枠組)に関する議論の中で、先進国の地球温暖化ガス排出削減義務や途上国支援強化をめぐって、先進国と途上国が激しく対立し、会期を1日延長する緊迫した事態となった。最終日には、急遽ユドヨノ・インドネシア大統領とパン国連事務総長が会議に駆けつけて、各国に柔軟性を持つよう呼びかけ、先進国、途上国の双方が妥協し、最終的には、すべての国を議論の対象とする作業部会が設置され、2009年までに合意することを内容とする、いわゆる「バリ・ロードマップ」が採択された。

なお、農林水産省関係では、途上国の森林減少問題が主要議題の1つとなり、次期枠組検討の作業部会での検討項目に位置付けられるなど、取組を進めることが合意された。また、次期枠組における先進国の森林・農地等の土地利用分野の取扱いについても検討に着手することとなった。具体的には、今後2年間の作業スケジュールが決定された、本年(2008年)中に、次期枠組における森林、農地等の土地利用を含めた各分野の取扱いルールに関する検討が行われ、2009年には、第2約束期間の排出削減目標についての結論を出すこととされた。

今回の会議では、会合の合間等を利用して、欧米諸国や条約事務局の担当官等と会い、海外における農地土壌関連の政策動向について聴取して貴重な情報を得るとともに、農地土壌専門家の間での意見交換や情報共有の必要性等に関して認識を共有することができた。

前述したように、本年は森林のみならず、農地も含めた土地利用分野全体の排出・吸収関係の取扱いに関する議論が一気に進むことになっており、我が国農地土壌の二酸化炭素吸収機能等についても適切な評価が行われるよう、こうした議論に迅速・的確に対応していく必要があると考えている。



— 会場の様子(地球環境戦略研究機関より) —

歳時記

雪国飛騨の新春を彩る花もち飾り

岐阜県飛騨地方では、雪国で花のないお正月を飾りたい……。古くからそう願った飛騨の人たちが、葉の落ちた枝に紅白の餅を付けて、花もち飾りを正月飾りとしてきました。

花もちは、お正月が終わるとそのままにしておき、おひな祭りのころに雛あられとして食べてられています。最近では冬の観光土産品として人気が高まっています。



— 飛騨の花もち飾り —



シンポジウムのお知らせ

「環境と農業の調和(仮題) —洞爺湖サミットに向けて—」

内外の専門家の講演により、日本、アメリカ、EUの農業環境政策の実施状況やその影響について概観するとともに、地球規模の環境問題と農業との関わりについても考察します。

- 日時：平成20年2月21日(木) 14:00～17:30
- 会場：総務省ビル 地下2階講堂
- シンポジウムの詳細については、ホームページでお知らせします。

<http://www.primaff.affrc.go.jp/index.htm>

編集後記

今年の十二支である鼠をモチーフにした年賀状を出された方も多いのではないのでしょうか？世界にどんな十二支があるのかインターネットで検索してみたところ、中国、韓国、台湾、ロシアは日本と同じ、タイやチベットは猫も十二支に含まれているという情報が掲載されていました。

本年もよろしくお願いいたします。

Primaff News

— 農林水産政策研究だより —

VOL. 6 平成20年1月18日発行

農林水産省農林水産政策研究所

企画広報室広報資料課

TEL : 03-3910-3809

※バックナンバーはHPをご覧ください。

<http://www.primaff.affrc.go.jp/seika/primaffnews/news.html>

